

【 南 小 国 町 】

校務DX計画

1. 趣旨

南小国町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度からICT環境の整備を進めてきた。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、南小国町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとする。

2 現状と課題

(1) 現状

1人1台端末の導入等に伴い、コミュニケーションツール、アンケート作成ツール等のクラウドツールを活用し、学校内や学校間及び教育委員会とのファイル共有や校内アンケート等を実施している。

教育活動においても、児童生徒のタブレットの持ち帰りを認め、デジタル教材を活用しながらのタブレット端末を活用した家庭学習に取り組んでいる。

令和2年度から統合型校務支援システムを導入し、複数の校務データの一元管理を可能にすることで、教職員の業務効率を向上させた。また令和6年度からは働き方改革の観点から各学校へ勤怠管理システムも導入し、業務の省力化を進めている。

(2) 課題

各学校からの提出物の中で押印があるものや、FAXにて提出があるものが残存しているため、デジタル化や省略可を検討する必要がある。

ICT関連では、令和6年度より人間型ロボットを各学校へ導入し、プログラミング教育の推進を図っているが、教職員が教育現場でまだまだ活用しきれていないとの声があがっている状況である。また、ICT教育においても得意な教職員と不得意な教職員の二極化傾向が見られるため、関係機関と連携しながらスキルの向上を図っていく必要がある。

2 今後について

(1) 校務支援システムについては、現在校内設置型のオンプレミスサーバー（各学校設置）であるが、令和7年度からは、クラウド型の校務支援システムを導入する予定である。

(2) これまでに導入した校務支援システムや勤怠管理システム、人間型ロボット、デジタル教材等の活用に関する研修会をICT支援員や関係機関との連携を図り、開催していく予定である。また教育委員会としても、他自治体の好事例の情報収

集を行い、教職員の授業等の教育活動におけるＩＣＴ活用をさらに推進するとともに、ＩＣＴ指導力の向上を図っていく。

- (3) 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃を図るとともに、学校とのFAXでのやり取りや提出物への押印を原則廃止していく予定である。